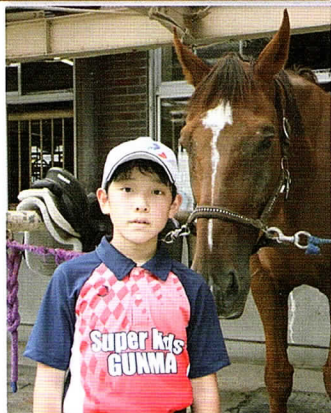


将来の夢はオリンピック選手 キラリと光るスーパーキッズ

馬術競技

前橋市立元総社
小学校・6年生

吉田 和生



と吉田くん。現在は、赤城乗馬クラブでレッスンを受けながら、毎週土曜の午前中は群馬県馬事公苑でおこなわれるスーパーキッズのレッスンに参加している。「二つのスクールに通うのは、より多くの馬に乗りた

県内の小学校4年生以上を対象に、体力・運動能力に優れた人材を早期に発掘し、子供たちの発育段階に応じた計画的・継続的な育成を図り、オリンピックや国際大会で活躍するトップレベルの選手を輩出することを目的とした「ぐんまスーパーキッズプロジェクト」。

同プロジェクトの馬術競技に在籍し、多くの大会で優秀な成績を収めてきた元総社小学校6年生の吉田和生くんは、今後の活躍が楽しみな選手の一人だ。

馬術は、人と動物が一体となって行う唯一のオリンピック競技で、男女の区別なく、同じ条件で実施されるのが特徴。オリンピックでは、演技の正確さや美しさを競う「馬場馬術」、コース上に設置された障害物を飛び越える際のミスの少なさと走行時間を競う「障害馬術」、馬場と障害の2種目にダイナミックなクロスカントリー走行を加えた「総合馬術」の3種目が行われる。

吉田くんが初めて馬に乗ったのは幼稚園の頃。「通っていた幼稚園が赤城乗馬クラブに連れて行ってくれたのが初めてでした。馬との触れ合いや、一緒にスポーツを楽しめるところに惹かれました。それ以来、続けています」

かったから。他にも、スーパーキッズでは、実践だけではなく講義が学べるのも良かった」。緊急事態宣言発令中は、大会への出場はもちろん、馬に乗ることも出来なかったため、体幹トレーニングやイメージトレーニングに専念していたという。「早く馬に乗りたかったので、今はうれしい」と笑顔で話す吉田くんは、自身の課題や今後の夢を聞いた。「課題をひとつクリアすると、まだ別の課題にぶつかる。中でも、動かした馬をまとめるのが苦手なので、もう少し柔らかく、しなやかに乗れるようになりたい。自分自身の技術の向上はもちろん、馬の個性を理解しつつ適切な指示が出せるよう、ひとつずつ成長していきたい。将来は、障害馬術で活躍できるオリンピック選手になりたいです。まずは、10月に栃木県的那須で行われる大会で、頑張りたい。県外大会への出場は初めてなので、とても楽しみです!」。

吉田くんをはじめ、トップアスリートを目指して、市内外から多くの有望選手が集まる「ぐんまスーパーキッズプロジェクト」。彼らたち、彼女たちの活躍から、今後も目が離せない。

「交流会」が7月仲間とともに部活



新型コロナウイルスの感染拡大を受けて中止が決定した中体連主催の全国・関東・県・市総体。前橋市中学校体育連盟（吉原秀人会長）では、7月23日（木祝）～26日（日）、8月1日（土）～4日（火）の8日間、代替えとなる「交流会」を開催した。

同交流会は、順位を決めるチャンピオンシップではなく、これまで熱心に取り組んできた部活動の成果を発表



過去の大会成績 30年度秋季県大会 馬場A1課目 2位、31年早春県大会 馬場A1課目 1位、第10回あかき杯大会 馬場A2課目 1位、令和元年度初夏県大会 障害飛越80 2位、第11回あかき杯大会 馬場A3課目 1位、第11回あかき杯大会 馬場L1課目 2位、第11回あかき杯大会 馬場A3課目 1位、第11回あかき杯大会 馬場L1課目 3位